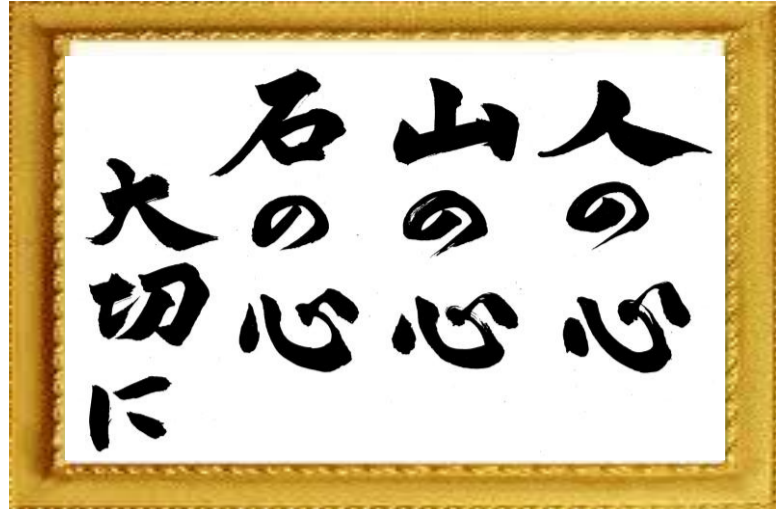




おかげさまで 150号達成
150号発行にあたって

フクタニュースは、平成16年5月31日付で第1号が発行されて以来、今回で150号を迎えました。平成16年は4月に「わくわく荘」の入所が開始され、本格的に介護事業の第一歩を踏み出した年でもあります。碎石事業では6月に整粒機を導入し、粒形改善等の品質向上の取り組みを開始しました。あれから12年がたち、社内でも社外でもいろいろなことがありました。今回は発行当時の想いに立ち返り、「こころ」をテーマに特集としてお届けします。

社 是



中田 勇司

ころがる石のように

「フクタニュース」も今回の号で150号を迎えるということで「心」をテーマに書いてほしいとの熱血編集長より依頼があった(笑)。なぜ「心」なのかというと弊社の社是「人の心、山の心、石の心 大切に」に由来。いつの頃からか額に入れて飾られていたこの書であるが、会長からは明確にわが社の社是とは言われた記憶がない。私の代になって、この額にある書を弊社の社是とするとしたのであるが、後に会長に、それでよかったかと聞いたら、それでよいとのことである。会社には理念が必要であるがフクタの理念として話があったように憶えている。思い返してみると、やはりこの額に掲げているこの「人の心、山の心、石の心 大切に」との言葉は創業当初から先代社長が大切にしていた「魂」が籠っているように私には感じられるのである。

次に「石の心」であるが、碎石を商品とする私どもの仕事の心構えであり、常に品質の向上の為、製品管理、研究開発に力を注ぎ安定した製品を出荷し、お客様からの信用信頼を得るというものである。弊社では、いち早く専務を中心に試験室を設け、骨材資源工学会への参加や、大学の研究室とも連携して碎石の品質向上にも取り組んできました。最後に「人の心」は、お客様、関係業者、そして従業員、地域を表し、よく三方よしの経営

「最後に「人の心」は、お客様、関係業者、そして従業員、地域を表し、よく三方よしの経営といいますが、地域や購入いただけるお客様があつての仕事、そして働く従業員があつての仕事であり、フクタと関わる全ての人が良かったと思えるような地域に貢献できる会社でありたいとの想いを表している。このような想いが派生して福祉事業まで事業は進んでいったわけであるが、弊社でもっとも大事にしたいと思っているのは、この「人の心」である。

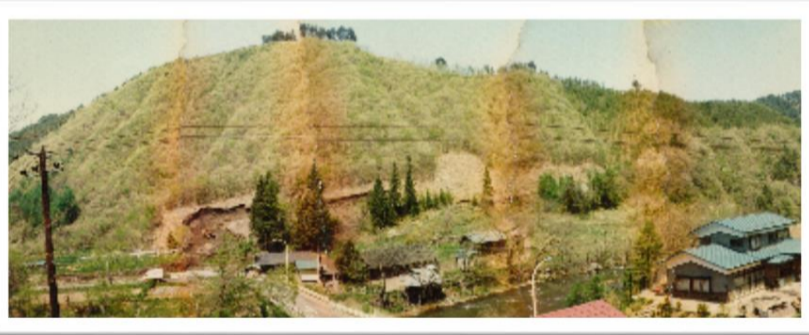
この三つの心を「大切に」と結んでいるのが弊社の社是であります。今後もこの三つの心を大切に、フクタ2代目として今後とも日々精進していく所存です。引き続きましてのご指導ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。



会長のこころ 会長インタビューより

家業である農業に従事していた当時36歳の会長は、農業だけでは家計が成り立たないことから、柴田建設さんへ入社した。ところが、とある理由から会長が自分で採石業を始めることとなった。なんとかこの土地で仕事をし、生活をしたい、家計を守らなれないと長男であった会長は、田中角栄の『日本列島改造論』を耳にする。これは、田中角栄が自由民主党総裁選挙を翌月に控えた昭和47年6月に発表した政策綱領、また著書でもある。工業再配置と交通・情報通信の全国的ネットワークの形成をテコにして、人と金の物流を巨大都市から地方に逆流させる「地方分散」を推進すること」を主旨とした事実上の政権公約である。田中角栄を内閣総理大臣とさせたこの論は、会長の中で『この先は土木の時代だ』と確信させた。

父を亡くし、妻や子供、母を養う会長は腹をくくった。全財産を使い事業を始めるが、すぐにオイルショックを迎える。そんな最中、東北自動車道の仕事が入り、毎日、1,000mの碎石を竜ヶ森トンネルの近くの生コンプラントへ納品。朝は早くから夜遅くまで毎日が無我夢中、隣近所の苦情や死亡事故を経験するなどの悪戦苦闘の日々だった。だが会長は、それを乗り越えてきたことより、この土地に仕事を生み、この土地で人に仕事を持たせられたことを誇りに話す。もし、改めて事業を始めるとしたら何かと尋ねると、『人のためになる仕事』だとやはり答えた。お金儲けをするということより、この仕事をする中でこの土地で働ける人の為になり、この仕事自体が世の中や人の為になる。その人の為、というのが会長の『こころ』である。

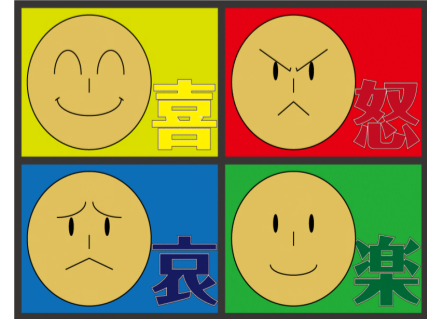


現在の工場は道路開設から始まりました。

人のこころ

人工知能の発達著しい。囲碁でも将棋でも今やトッププロを負かす実力である。次に何をすることが最善であるかを自分で考えることができるのである。さらに、人工知能は正確である。そして忘れない。疲れない。厭きない。ムラがない。眠らない。飲食しない。生殖しない。死なない。ムダを一切排除して猛烈に学習し続ける。

片や人間は、長い年月をかけて悩み、苦しみ、寄り道し、たまにはさぼり最善を考える。寄り道をムダというなら、ムダが心のゆとりを生んでくれるのではないだろうか。喜び、怒り、哀しみ、そして笑う。そんな「人の心」を物差しにしてこれからはフクタが成長できればと思う。



人だからこそ『喜怒哀楽』

コントロールでできる自分のこころ

忙しい中でも、自分自身を見失うこと無く過ごしたいものです。仕事でもプライベートでも誰かの協力が必要な時に、なかなか期待通りの協力が得られない時ってありますよね。そんな時に...

「何で協力してくれないの？」

「もっと言い方を工夫してくれば良いのに！」と相手の「態度」を批判するその前に、自分の「態度」省みて、自分の心を変えてみるべきだと思えます。相手の「態度」を無理に変えようと試行錯誤するよりも自分の心を変える方がよほど簡単かつメリットがあります。ハンドルの握り、重機、ダンプをコントロールするのは当たり前、心のコントロールも安全、安心に繋がる大切な要素の一つではないでしょうか？

福田運送の理念

安全、安心、誠実、信頼をモットーとし地域社会に信頼頂き、地域になくてはならない会社造りに社員一丸となって前進して行く所存です。今後とも、皆様のご支援ご協力の程宜しくお願い致します。



福田運送の原点 自家用車時代のダンプ部門

編集のこころ

なんちゃって編集長

フクタニュースをはじめもう12年半になるんですね。はじめたての頃は『本当にこのニュースでお客様と何かを築き上げることができのらうか、文才もまるでないし、デザインの勉強もしたことない。こんなんで失礼にあたらないのか』と半信半疑でした。ところが、何か月かすると読んでくださった方より『毎月見てるよ！おもしろかった！』と声を掛けていただけただけになりました。月末になると請求書の仕事と重なり四苦八苦。でも皆さんのお声のおかげで、頑張ろうと続けてくることができました。プロじゃないので、素直に謙虚なこころでこのニュースと向かい合うことを一番に、(専務のネタが切れるまで、)頑張っていきたいと思えます。誤字脱字ご勘弁下さる。



函館点描

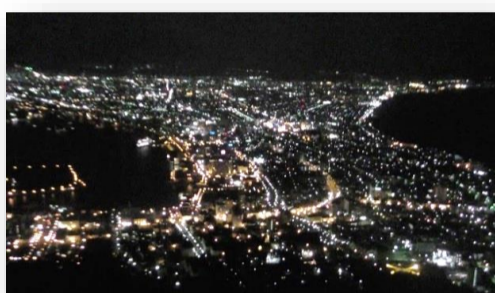
本州と北海道を結ぶ交通手段が青函連絡船であったころ、北海道は異国だった。新幹線が函館まで開通し、電車で行けるようになったが、トンネルばかりではじめがつかず、ホームに降りても異国の感情はなかった。なんとか異国を見つけようと足を棒にして探し回った。函館で見つけた異国情緒を紹介する。

◇海鮮丼 注文に迷うほど海鮮丼の種類は豊富、マグロは少なく全て鮭であった。



◇夜景

街並みに高い建物はなく、光が無駄なく見える効率の良い夜景



◇路面電車

景色に溶け込む存在感



◇五稜郭タワー



中国人観光客でいっぱい

◇倉庫群



歴史を観光に生かしている。

◇坂道



かなりの急坂 冬は大丈夫だろうか

◇消火栓



函館の消火栓は黄色かった

◇猫

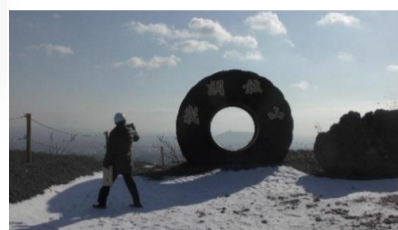


愛想の良い猫 ノラとは思えぬ体格と毛並み



こだわり

北海道北斗市にある太平洋セメント嵯峨鉦山を見学させていただいた。年間800万トンの石灰石を生産する日本有数の鉦山である。当社の20倍はある規模の大きさに圧倒され、実感がわからない。年間千人を超える見学者が訪れるという切羽には、展望台が整備され、大型タイヤと削孔された原石が展示してあった。説明によると大型タイヤの穴からは函館山が、原石の孔からは、北海道新幹線の新函館北斗駅が見えるように設置してあるとのこと。覗いてみると確かに見えた。ちょっとした感動である。さらに、切羽内の夜間照明は函館山から見て北斗七星に見えるように配置してあるとのこと。北斗市へ敬意を表してのことであろう。このこだわりは尋常ではない。



大型タイヤの真ん中に函館山が収まっている



孔の先の小さな空間に駅舎が見えます



バケット容量20m³のWA1200と100t積みダンプ

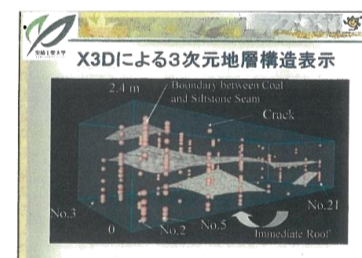


夜はこんな光景が見られる



～ あつらいいな ～

人体はレントゲンやCTスキャン、超音波、カメラ等で可視化できるようになり、医療技術に格段の進歩をもたらした。同様に地面の中がどうなっているのかを知る技術も研究開発されつつある。室蘭工業大学の板倉教授は、ドリルの削孔時における推力、回転、打撃エネルギーやトルクのデータにより地下岩盤構造を3次元的に可視化する技術を研究している。採石業で言うと、発破の削孔作業時のデータで原石の品質がわかるといったシステムである。ハード（センサー）技術の進化とソフト（解析）技術の進化により、今まで見えなかったものが見え、わからなかったことがわかるようになった。これからは、わかったことを生かす人の知恵が問われてくる。



3次元化された地中の構造

勤労感謝



季節はすっかり初冬。鍋が恋しい季節になりました。ということで、勤労感謝の日の翌日24日にすき焼きとホルモン鍋で鍋パーティーを開催しました。「みんなでブラック企業を考えよう」というテーマでパーティー開始となりましたが、口は、しゃべるより肉を処理するほうで忙しく、出てくる言葉は「腹減った」「うまい」が多かったようです。おにぎりや漬物までほぼ完食し、みんなで楽しく和気あいあいとした時間を過ごすことができました



年末年始休暇と休業日変更のお知らせ

☆ 年末年始休業

平成28年12月30日(金)

～ 平成29年1月6日(金)

☆ 社内行事につき休業

平成29年1月7日(土)

5, 6日は、出荷対応させていただきますので年内にご連絡ください。大変ご迷惑おかけしますがよろしくお願い致します。



編集後記

150号までお付き合いいただきましてありがとうございます。何号まで続けていくことができるのだろうと・・・考えてしまいました。

